

交通事業のあらまし

(令和3年4月)



京都市交通局

目 次

1 自動車運送事業	1
（1）営業設備	1
（2）運賃	6
（3）直近の経営状況	7
（4）令和3年度事業計画	9
（5）令和3年度財政状況	14
2 高速鉄道事業	16
（1）営業設備	16
（2）運賃	20
（3）直近の経営状況	21
（4）令和3年度事業計画	23
（5）令和3年度財政状況	28
3 附帯事業	30
（1）駅ナカビジネス収入額の推移	30
（2）広告料収入の推移	30
4 職員数	31
5 機 構	32

1 自動車運送事業

(1)営業設備 (令和3年4月1日現在)

ア 路線

	令和3年度(A)	令和2年度(B)	比較(A-B)
営業路線キロ	318.53km	316.33km	2.2km
バス専用レーン	86.6km	86.6km	—
停留所数	714停留所	707停留所	7停留所
停留所標識数	1,629箇所	1,618箇所	11箇所
停留所間平均距離	410m	410m	—
運転系統数	81系統	82系統	(注1) ▲1系統

注1 運転系統数の減は110号系統を86号系統に統合したものです。



バスの駅(北野白梅町)

イ バス停

	令和3年度(A)	令和2年度(B)	比較(A-B)
上屋	656箇所	653箇所	3箇所
ベンチ	889箇所	878箇所	11箇所
バス接近表示器	550箇所	547箇所	3箇所
照明	1,183箇所	1,181箇所	2箇所
バスの駅	69箇所	63箇所	6箇所



バスの駅(南太秦)

ウ 車 両

	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	比較 (A-B)
車両数	816両	822両	▲6両
うち低床車(バリアフリー対応車両)	816両(100%)	822両(100%)	▲6両
ノンステップバス	787両(96%)	793両(96%)	▲6両
ワンステップバス	29両(4%)	29両(4%)	—
うちアイドリングストップバス	816両(100%)	819両(99%)	▲3両
うちハイブリッドバス	59両(7%)	59両(7%)	—
うちラッシュ型車両	372両(46%)	340両(41%)	32両

注 ()内は、車両数に占める割合を示しています。

○車両における新型コロナウイルス対策

抗ウイルス 抗菌 加工済

Antiviral & Antibacterial Coating Applied

已做抗病毒抗菌处理
항바이러스 항균가공완료

↑市バス全車両に抗ウイルス・抗菌加工を施し、上記ステッカーを車内等に掲出しています。



←新型コロナウイルス感染症対策として、以下の新たな仕様を採用した車両を58両導入しました。
(令和3年4月1日現在)

- ・換気扇の増設(2台→3台)
- ・座席シートへの抗ウイルス加工生地を導入
- ・最前列の座席を荷物置場に変更

エ 事業所及び案内所等

(ア) 営業所及び出張所

名 称	所在地	敷地面積(㎡)	所属車両数(両)	
				うち委託 車両数
西賀茂営業所	北区西賀茂山ノ森町	9,963.86	108	—
烏丸営業所	北区小山北上総町	(注1) 15,251.40	88	—
錦林出張所(全部を管理の受委託)	左京区浄土寺真如町	5,058.34	44	44
九条営業所	南区東九条下殿田町	19,580.42	182	—
梅津営業所(一部管理の受委託)	右京区西院笠目町	16,925.71	176	54
洛西営業所(全部を管理の受委託)	西京区大枝東新林町	14,115.81	106	106
横大路営業所(全部を管理の受委託)	伏見区横大路橋本	10,261.91	112	112
合 計	—	—	816	316

注1 烏丸営業所の敷地面積は、バスターミナル部分を含みます。

(イ) 車両工場

名 称	所在地	敷 地
自動車整備工場	伏見区竹田西段川原町	地下鉄竹田車両基地に含みます。

(ウ) 市バス・地下鉄案内所

市バス・地下鉄の運行に係る案内(ダイヤ, 運賃, 系統, 停留所位置等)やカード乗車券の発売等を行っています。

名 称	所在地	案内時間等
交通局	地下鉄太秦天神川駅地上(SANSA右京1階)	7時30分～19時30分 (年中無休)
京都駅前	JR京都駅中央口前 バス総合案内所内	
コトチカ京都	地下鉄京都駅中央1改札口横	
北大路	北大路バスターミナル内(地下3階)	
烏丸御池駅	地下鉄烏丸御池駅構内	



市バス・地下鉄案内所
(コトチカ京都)

(エ) 市バス・地下鉄定期券発売所

名 称	発売日・発売時間	
四条駅	月～土曜日(祝日を除く) ▶ 7時30分～19時30分 日祝日 ▶ 9時～17時	
京都駅前		
三条京阪駅		
北大路駅		
山科駅		
竹田駅	月～土曜日(祝日を除く) ▶ 12時～19時30分 日祝日 ▶ 9時～17時	
六地藏駅		
二条駅		
梅津営業所	月末5日～月始5日	うち月～土曜日 12時～19時30分
洛西営業所		
西賀茂営業所	月末2日～月始1日	うち日祝日 9時～17時
横大路営業所		

注1 年末・年始(12月31日～1月3日)は休みです。

注2 地下鉄のICOCA定期券(通勤・継続)については、地下鉄全駅の自動券売機で購入可能です。

(2)運賃

均一運賃区間…

大人 230円
小児 120円

調整運賃区間 (均一区間外)

大人 160円～420円
小児 80円～210円

【上賀茂・西賀茂地域】
平成29年3月
均一運賃区間へ移行

【高雄地域】
令和3年3月
均一運賃区間
へ移行

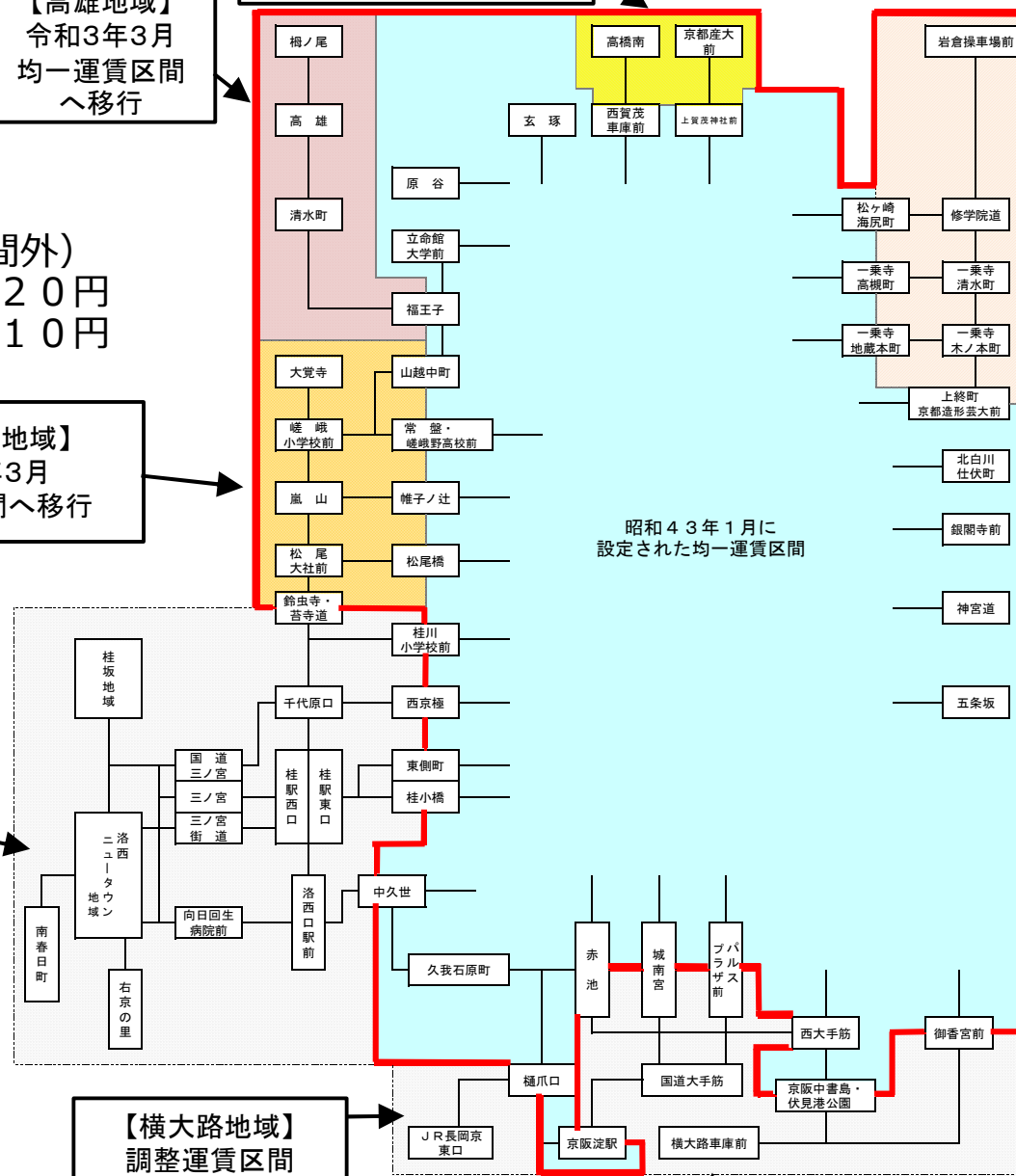
【岩倉・修学院地域】
平成28年3月
均一運賃区間へ移行

【嵯峨・嵐山地域】
平成26年3月
均一運賃区間へ移行

【桂・洛西地域】
調整運賃区間

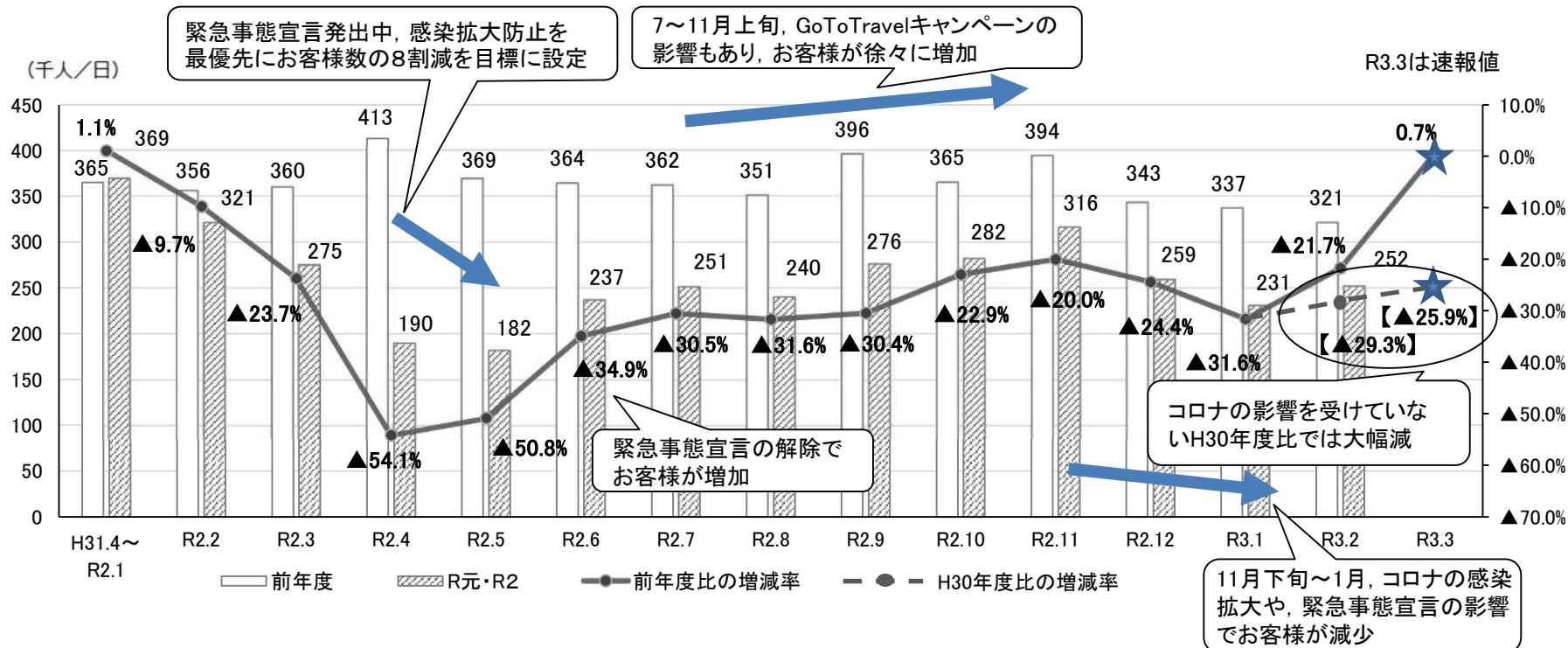
【横大路地域】
調整運賃区間

昭和43年1月に
設定された均一運賃区間

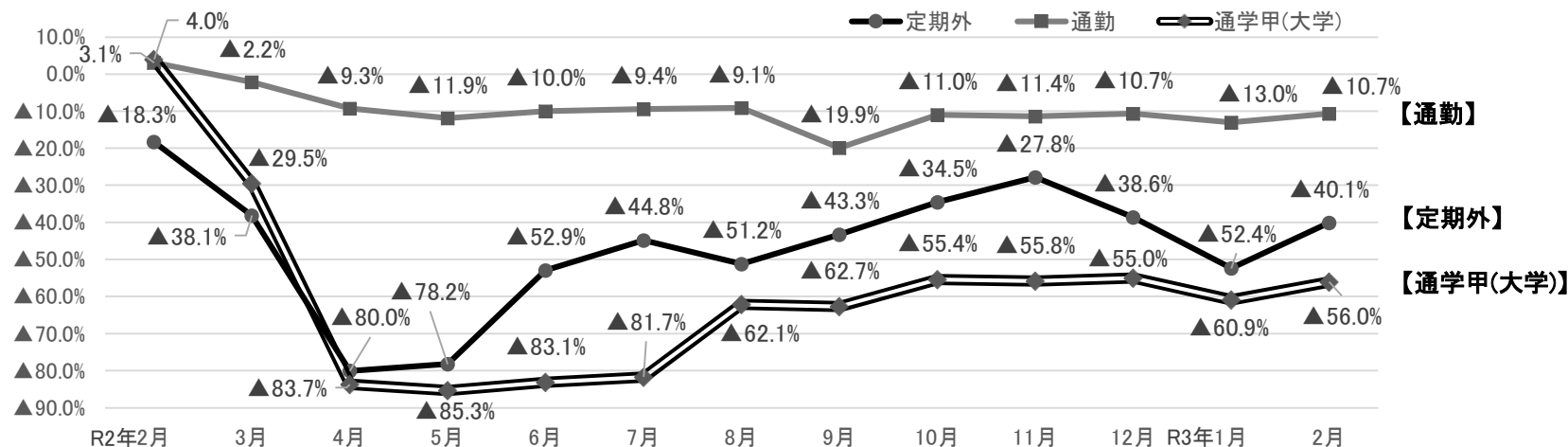


(3)直近の経営状況

ア 新型コロナウイルス発生以降の1日当たりのお客様数の推移



(参考)新型コロナウイルス発生以降の定期外及び定期券(通勤・通学【大学】)のお客様数の対前年度増減率の推移



イ 令和2年度決算見込み

お客様数は1日当たり10万人を越える減で、
昭和37年当時のお客様数(254千人／日)に
まで激減

(税抜)

	令和2年度決算見込み (令和3年度予算書より)	令和元年度決算	平成30年度決算
経常収入	156億円	213億円	217億円
運賃収入	138億円 (元年度比▲31.0%, 1日当たり▲1,700万円)	200億円	204億円
お客様数	245千人／日 (元年度比▲31.4%)	357千人／日	364千人／日
経常支出	212億円 [※]	211億円	198億円
経常損益	▲56億円	2億円	19億円
企業債残高	67億円	53億円	47億円
未処分利益剰余金	13億円	69億円	92億円
資金剰余額	17億円	65億円	56億円

※ 執行抑制を図ったものの、コロナ感染拡大防止対策経費(122百万円)や減価償却費等(98百万円)の増により、令和元年度決算と比較して、1億円の増となっています。

(4)令和3年度事業計画

ア 運転計画

区 分		令和3年度(A)	令和2年度(B)	比 較(A-B)
営業キロ数(km)		319	316	3
在籍車両数(両)		816	822	▲ 6
走行キロ数 (千km)	年 間	31, 646	32, 047	▲ 401
	1日平均	86. 7	87. 8	▲ 1. 1
旅客数 (千人)	年 間	97, 820	135, 780	▲ 37, 960
	1日平均	268	372	▲ 104
旅客収入 (千円)	年 間	16, 441, 000	22, 449, 000	▲ 6, 008, 000
	1日平均	45, 044	61, 504	▲ 16, 460

イ 予算概要

過去最大の赤字予算(H11:▲62億円)
に匹敵する赤字を計上

○ 経費節減等に努めるも、新型コロナウイルスによる運賃収入の激減により、経常損益は▲56億円もの大幅な赤字

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様数の大幅な回復は見込めず、運賃収入は前年度に比べ▲60億円もの減収を見込まざるを得ない極めて厳しい状況
- ・ 厳しい経営状況を踏まえ、日々の安全運行や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための予算を確保しつつ、あらゆる事業を点検し、緊縮予算を編成
- ・ この結果、経常損益は▲56億円もの大幅な赤字、また、これまで積み上げてきた未処分利益剰余金や資金剰余額を使い果たし、累積赤字へと転落し、累積資金不足が生じる見込み

○ 市民の足を守るために

- ・ 危機的な経営状況を踏まえ、経常経費の節減はもとより、御利用状況に応じたダイヤ編成による人件費・経費の節減、均一運賃区間の全系統への前乗り後降り方式の導入の拡大やバス待ち環境の新規整備を延期。
また、新型コロナウイルス感染症の拡大以前からの課題であった各種割引乗車券等の抜本的見直しに着手するとともに、全庁体制はもとより、民間事業者とも連携した公共交通機関の利用促進のほか、国に対する抜本的な支援の要望など、今できる取組を着実に実施
- ・ 市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり、「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて、令和3年度中に、安定経営に向けた中長期の経営計画を策定

(ア) 予算の主要数値

	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
経常収入	178億円	239億円	▲61億円
経常支出	232億円	245億円	▲13億円
経常損益	▲56億円	▲8億円	▲48億円
未処分利益剰余金/▲累積欠損金	▲43億円	59億円	▲102億円
資金剰余額/▲累積資金不足	▲30億円	66億円	▲96億円
年度末企業債残高	109億円	74億円	35億円

※経常収入と支出は税込額、経常損益、未処分利益剰余金及び累積欠損金は税抜額であるため、経常損益は経常収入と支出の差とは一致しません。

(イ) 市バス 1日当たりのお客様数内訳

(単位: 千人/日)

	令和3年度 予算A	令和2年度		増減 A-B=C	増減率 C/B
		予算B	見込		
市バス全体	268	372	245	▲104	▲28.0%
うち定期	77	95	71	▲18	▲18.9%
うち通勤	63	71	63	▲8	▲11.3%
うち通学(大学)	8	17	5	▲9	▲52.9%
うち定期外	115	198	97	▲83	▲41.9%

※市バス・地下鉄合計 ②予算: 781千人/日→③予算: 569千人/日

ウ 主要事項

(ア) 経営改善のための取組

〔コスト削減・事業の見直し〕

○ 経常経費の節減

- ・ 御利用状況に見合ったダイヤ見直し(▲6両減車)に伴う車両修繕費等の縮減や市バス車両に係る特別清掃の見直し, 大型二種免許取得費用支援金の支給方法の変更に伴う費用の平準化など
- ・ 観光客の減少に伴う“おもてなしコンシェルジュ”の活動時間の縮小など

○ 人件費の抑制

- ・ 御利用状況に見合ったダイヤ見直しに伴う職員数の適正化
- ・ 職員の給与減額措置

給料の額について, 以下の減額措置を実施

- ・ 局長級 ▲6.0%, 部長級 ▲5.5%, 課長級 ▲5.0%
(令和3年4月～令和4年3月)
- ・ 課長補佐・係長級 ▲3.0%, 係員(3級及び2級) ▲2.5%
(令和3年7月～令和4年3月)

- ・ 時間外勤務の縮減 など

○ 均一運賃区間の全系統への前乗り後降り方式の拡大の延期

○ バス待ち環境の新規整備の延期

○ バス車両購入費の平準化

(リースによるバス車両の調達, 車両購入計画の見直し)

- ・ リースによるバス車両の調達: 令和3年4月から新たに2両導入
- ・ 車両購入計画: 【令和3年度】経営ビジョン60両→予算56両

〔収入増加・利用促進策〕

○ 各種割引乗車券等の抜本的な見直し【新規】

- ・ 企画乗車券の価格適正化(令和3年10月実施)
- ・ 各種割引乗車券等からポイントサービスへの転換(令和5年4月実施)
※「トラフィカ京カード」及び「昼間回数券」は令和3年10月に発売停止

○ 高雄地域の公共交通の利便性向上に向けた取組(令和3年3月実施)

- ・ 高雄地域への均一運賃区間の拡大
- ・ 8号系統の柵ノ尾への延伸
- ・ 西日本ジェイアールバスとの「バス一日券」及び「地下鉄・バス一日(二日)券」の共通利用化, 「市内中心フリー」定期券の共通利用範囲の拡大

○ チーム「電車・バスに乗るっ」の参画事業者, 他社局と連携した公共交通機関を安全・安心に御利用いただくための取組や利用促進に向けた取組

○ 市バスの運行情報のオープンデータ化を目指したシステムの構築【新規】

時刻表, バス停留所の緯度経度情報等について, 国土交通省が定める標準的なバス情報フォーマットとして整備し, 令和5年度にオープンデータ化を目指す。

〔お客様の御利用状況等に応じたダイヤ編成(令和3年3月実施、車両822→816両)〕

○ お客様の御利用状況に応じたダイヤ編成

- ・御利用状況に見合ったダイヤの見直し等

・ダイヤの見直し(100号,101号,5号,59号,京都岡崎ループ等)
・系統の統合(110号系統を86号系統に統合)

- ・輸送力の再配分による利便性向上

・洛西ニュータウン内を循環し、阪急洛西口駅及びJR桂川駅へ接続する特西4号系統を増便

〔路線・ダイヤの充実〕

- ・まちづくりの進展に合わせた利便性の向上等

・北泉通の整備完了に伴う左京区総合庁舎へのアクセス向上
・上賀茂神社前広場の整備に伴うバスの乗り入れ
・三条通(三条大橋西詰～河原町通)の歩道拡幅に伴うバス運行の分散化

- ・民間バス事業者と連携した取組の推進

・高雄地域への均一運賃区間の拡大に合わせた8号系統の柵ノ尾への延伸【再掲】
・西日本ジェイアールバスとの「バス一日券」及び「地下鉄・バス一日(二日)券」の共通利用化【再掲】
・通学アクセスの充実を踏まえた快速立命館号系統のダイヤ見直し

- ・地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充

・52号系統の本格運行化(上京区仁和学区)

○ 路線・ダイヤの在り方の検討

市バス旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施

令和2年度予算の再計上、令和3年10月頃実施予定

(イ)安全運行の推進

- 安全性確保が必要なバス停留所の安全対策
- 安全運転訓練車や外部機関を活用した事故防止研修の継続的な実施

(ウ)新型コロナウイルス感染症対策

車両消毒、車内換気、お客様への周知等を徹底するとともに、出勤前出勤後の検温など、交通局職員の感染防止を引き続き徹底

(エ)中長期の経営計画の策定

「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて、安定運営に向けた中長期の経営計画を策定

(5)令和3年度財政状況

ア 予算比較（前年度比）

(税込)

区 分		R3年度予算(A)	R2年度予算(B)	差引増▲減(A－B)
		億 百万円	億 百万円	億 百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	174 38	234 87	▲ 60 49
	う ち 運 送 収 益	164 41	224 49	▲ 60 08
	営 業 外 収 益	3 80	4 53	▲ 73
	収 入 計	178 18	239 40	▲ 61 22
	営 業 費 用	229 41	238 57	▲ 9 16
	う ち 人 件 費	93 49	95 68	▲ 2 19
	う ち 経費(管理の受委託・燃料費・修繕費等)	116 40	123 54	▲ 7 14
	う ち 減 価 償 却 費 等	19 52	19 35	17
	営 業 外 費 用	2 13	6 22	▲ 4 09
	支 出 計	231 54	244 79	▲ 13 25
経 常 損 益		▲ 55 60	▲ 8 13	▲ 47 47
純 損 益		▲ 55 60	▲ 8 13	▲ 47 47
未 処 分 利 益 剰 余 金 / ▲ 累 積 欠 損 金		▲ 42 66	58 58	▲ 101 24
資本的 収 支	収 入	25 50	31 15	▲ 5 65
	う ち 企 業 債 金	25 05	30 21	▲ 5 16
	う ち 補 助 金	-	45	▲ 45
	支 出	38 44	41 79	▲ 3 35
	う ち 建 設 改 良 費 金	25 05	30 67	▲ 5 62
	う ち 企 業 債 償 還 金	12 89	10 62	2 27
差 引		▲ 12 94	▲ 10 64	▲ 2 30
資 金 剰 余 額 / ▲ 累 積 資 金 不 足		▲ 30 01	65 53	▲ 95 54
年 度 末 企 業 債 残 高		109 32	74 27	35 05

※経常損益、純損益、未処分利益剰余金及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しません。

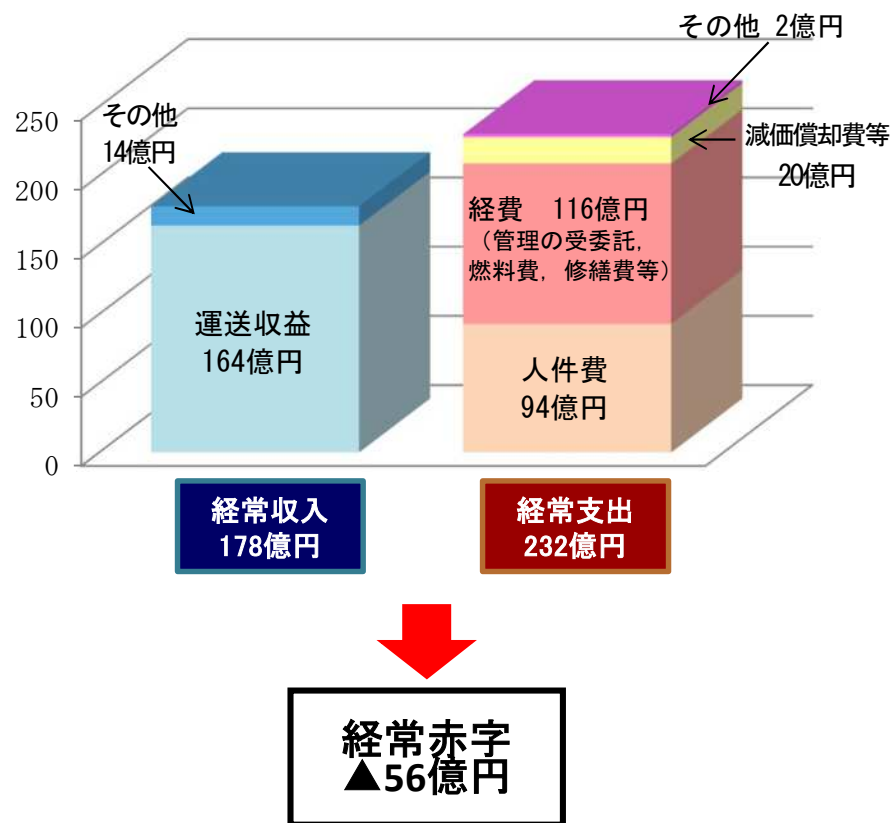
※R3年度予算の財政健全化法における資金不足額は特別減収対策企業債の発行(30億1百万円)により生じません。

イ 予算の経費削減状況

(単位: 百万円)

	削減額	経常支出	資本的支出
○ 経常経費の節減	▲161	▲161	—
・御利用状況に見合ったダイヤ見直し (車両修繕費, 委託料など)	▲63	▲63	—
・市バス車両に係る特別清掃の見直し	▲4	▲4	—
・大型二種免許取得費用助成金の支給 方法の変更に伴う費用の平準化	▲24	▲24	—
・観光客の減少に伴う交通案内, 観光案 内の精査	▲39	▲39	—
・その他経常経費の節減等	▲31	▲31	—
○ 人件費の抑制	▲227	▲227	—
・御利用状況に見合ったダイヤ見直し	▲142	▲142	—
・職員の給与減額措置	▲50	▲50	—
・時間外勤務の縮減	▲35	▲35	—
○ 均一運賃区間の全系統への前乗り 後降り方式の拡大の延期	▲142	▲142	—
○ バス待ち環境の新規整備の延期 (バス停上屋, バスロケの増設, バスの 駅)	▲34	▲3	▲31
○ バス車両購入費の平準化 (リースによるバス車両の調達, 車両購 入計画の見直し)	▲119	▲13	▲106
合 計	▲683	▲546	▲137

ウ 経常損益の内訳



2 高速鉄道事業

(1)営業設備 (令和3年4月1日現在)

ア 路線

区 分	烏丸線	東西線
営業路線キロ	13.7km	17.5km
駅数	15駅	17駅
駅名	国際会館, 松ヶ崎, 北山, 北大路, 鞍馬口, 今出川, 丸太町, 烏丸御池, 四条, 五条, 京都, 九条, 十条, くいな橋, 竹田	六地蔵, 石田, 醍醐, 小野, 柳辻, 東野, 山科, 御陵, 蹴上, 東山, 三条京阪, 京都市役所前, 烏丸御池, 二条城前, 二条, 西大路御池, 太秦天神川
駅間平均距離	0.98km	1.09km
運転回数	国際会館～竹田(平日)167往復	六地蔵～御陵(平日)136往復 御陵～京都市役所前(平日)200往復 京都市役所前～太秦天神川(平日)189往復
路線構造	地下構造(ただし, 竹田付近において一部地上)	地下構造
軌間	1.435m	1.435m
集電方式	架空線方式 直流1,500ボルト	架空線方式 直流1,500ボルト
建設費	3,053億円	5,461億円

イ 車両

■烏丸線 20編成(1編成6両) 120両
※令和3年度から令和7年度にかけて, 供用開始から40年以上を経過する9編成(54両)を順次更新予定

■東西線 17編成(1編成6両) 102両



烏丸線



東西線



地下鉄の全車両に抗ウイルス抗菌加工を施し, 上記のステッカー車内等に掲出しています。

ウ 事業所及び施設

(ア) 運輸事務所及び駅

名 称	所在地
烏丸線運輸事務所	
乗務区(竹田)	伏見区竹田西段川原町
駅務区(九条)	南区東九条南烏丸町
国際会館駅	左京区岩倉大鷲町
松ヶ崎駅	左京区松ヶ崎六ノ坪
北山駅	北区上賀茂岩ヶ垣内町
北大路駅	北区小山北上総町
鞍馬口駅	上京区上御霊中町
今出川駅	上京区岡松町
丸太町駅	中京区大倉町
烏丸御池駅	中京区虎屋町
四条駅	下京区二帖半敷町
五条駅	下京区大坂町
京都駅	下京区東塩小路町
九条駅	南区東九条南烏丸町
十条駅	南区東九条南石田町
くいな橋駅	伏見区竹田中島町
竹田駅	伏見区竹田桶ノ井町

名 称	所在地
東西線運輸事務所	
乗務区(醍醐)	伏見区醍醐高畑町
駅務区(京都市役所前)	中京区下丸屋町
六地蔵駅	宇治市六地蔵奈良町
石田駅	伏見区石田森東町
醍醐駅	伏見区醍醐高畑町
小野駅	山科区小野西浦
栂辻駅	山科区栂辻草海道町
東野駅	山科区東野片下り町
山科駅	山科区安朱南屋敷町
御陵駅	山科区御陵原西町
蹴上駅	東山区東小物座町
東山駅	東山区大井手町
三条京阪駅	東山区大橋町
京都市役所前駅	中京区下丸屋町
烏丸御池駅(再掲)	中京区虎屋町
二条城前駅	中京区二条城町
二条駅	中京区西ノ京星池町
西大路御池駅	中京区西ノ京東中合町
太秦天神川駅	右京区太秦下刑部町

(イ) 地下鉄各駅の委託状況



(ウ) 車両基地

名 称	所在地	敷地面積
竹田車両基地	伏見区竹田西段川原町	67,670.88m ²
醍醐車庫	伏見区醍醐高畑町	地下構造式



竹田車両基地

(エ) 変電所

名 称	所在地
国際会館前変電所	左京区岩倉大鷲町
北大路変電所	北区小山北上総町
姉小路変電所	中京区車屋町
勧進橋変電所	南区上鳥羽勧進橋町
醍醐変電所	伏見区醍醐川久保町
山科変電所	山科区安朱中小路町
東山変電所	東山区分木町
御池変電所	中京区車屋町
天神川変電所	右京区太秦下刑部町



醍醐車庫

エ 駅設備

(ア) 烏丸線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	国際 会館 〔K01〕	松 ヶ 崎 〔K02〕	北 山 〔K03〕	北 大 路 〔K04〕	鞍 馬 口 〔K05〕	今 出 川 〔K06〕	丸 太 町 〔K07〕	烏 丸 御 池 〔K08〕	四 条 〔K09〕	五 条 〔K10〕	京 都 〔K11〕	九 条 〔K12〕	十 条 〔K13〕	く い な 橋 〔K14〕	竹 田 〔K15〕	計
エレベータ(基)	3	2	2	2	2	2	1	※	3	2	3	2	2	2	4	32
エスカレータ(基)	3	3	1	5	1	4	2	※	6	3	4	1	1	2	5	41
改札口(箇所)	1	1	1	2	1	2	2	※	3	2	4	1	1	1	2	24
自動券売機(台)	4	2	4	6	4	5	5	※	10	5	17	2	2	2	5	73
自動改集札機(台)	5	4	5	9	4	9	8	※	13	6	21	4	4	4	10	106
精算機(台)	2	1	1	3	1	3	2	※	4	2	5	1	1	1	2	29

注 烏丸御池駅分は、(イ)東西線で一括計上しています。
烏丸御池駅、四条駅、京都駅の3駅に可動式ホーム柵を設置しています。

(イ) 東西線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	六 地 蔵 〔T01〕	石 田 〔T02〕	醍 醐 〔T03〕	小 野 〔T04〕	柳 辻 〔T05〕	東 野 〔T06〕	山 科 〔T07〕	御 陵 〔T08〕	蹴 上 〔T09〕	東 山 〔T10〕	三 条 京 阪 〔T11〕	京 都 市 役 所 前 〔T12〕	烏 丸 御 池 〔T13〕	二 条 城 前 〔T14〕	二 条 〔T15〕	西 大 路 御 池 〔T16〕	太 秦 天 神 川 〔T17〕	計
エレベータ(基)	5	5	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	3	2	2	5	4	45
エスカレータ(基)	5	3	3	1	3	4	2	6	7	2	6	4	10	2	3	4	4	69
改札口(箇所)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	19
自動券売機(台)	5	3	5	2	3	2	4	2	3	3	5	4	8	3	3	3	5	63
自動改集札機(台)	5	4	5	4	4	4	6	4	4	4	7	4	9	4	5	4	4	81
精算機(台)	1	1	2	1	1	1	2	1	2	2	2	2	3	1	1	1	2	26

注 東西線は全駅にホームドアを設置しています。

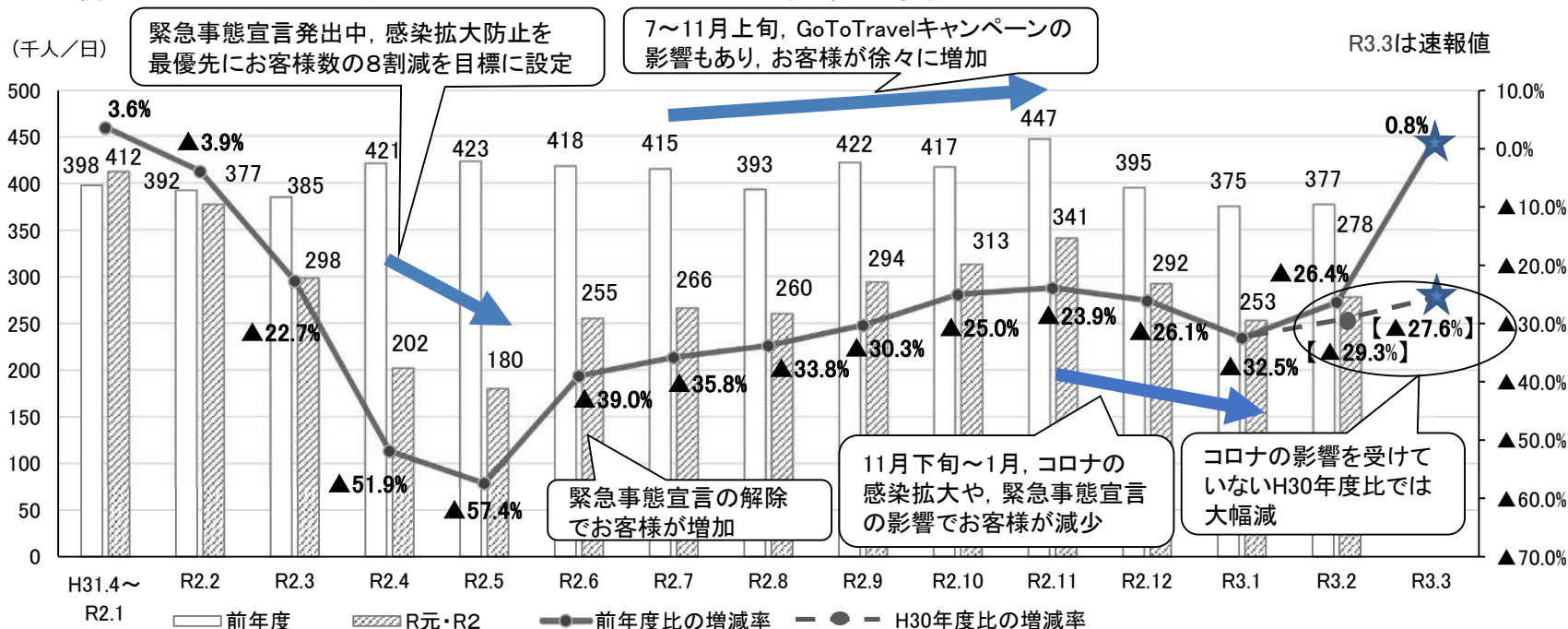
(2)運賃

(単位:円)

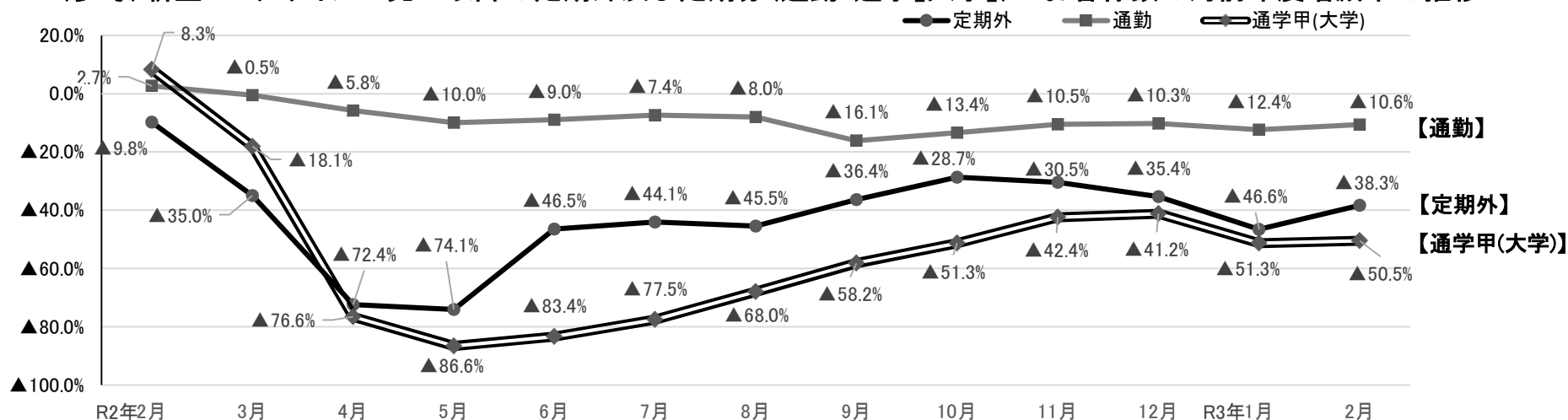
区 分	1区 (3 ^{キロ} まで)	2区 (3 ^{キロ} を超え7 ^{キロ} まで)	3区 (7 ^{キロ} を超え11 ^{キロ} まで)	4区 (11 ^{キロ} を超え15 ^{キロ} まで)	5区 (15 ^{キロ} を超える区間)
大人	220	260	290	330	360
小児	110	130	150	170	180

(3)直近の経営状況

ア 新型コロナウイルス発生以降の1日当たりのお客様数の推移



(参考) 新型コロナウイルス発生以降の定期外及び定期券(通勤・通学【大学】)のお客様数の対前年度増減率の推移



イ 令和2年度決算見込み

1日当たり13万人を越える減で、地下鉄東西線開業当時(H9:256千人／日)のお客様数まで激減

(税抜)

	令和2年度決算見込み (令和3年度予算書より)	令和元年度決算	平成30年度決算
経常収入	250億円	333億円	333億円
運賃収入	168億円 (元年度比▲34.9%, 1日当たり▲2,500万円)	258億円	258億円
お客様数	265千人／日 (元年度比▲33.8%)	400千人／日	397千人／日
経常支出	311億円 [※]	310億円	310億円
経常損益	▲61億円	23億円	23億円
現金収支(償却前損益)	40億円	121億円	118億円
企業債等残高	3,444億円	3,445億円	3,529億円
▲累積欠損金	▲3,090億円	▲3,028億円	▲3,052億円
▲累積資金不足	▲376億円	▲305億円	▲314億円

※ 執行抑制を図ったものの、コロナ感染拡大防止対策経費(54百万円)や減価償却費等(334百万円)の増により、令和元年度決算と比較して、1億円の増となっています。

(4)令和3年度事業計画

ア 運転計画

(ア) 全路線

区 分		令和3年度(A)	令和2年度(B)	比 較(A-B)
営業キロ数(km)		31. 2	31. 2	—
在籍車両数(両)		222	222	—
走行キロ数 (千km)	年 間	21, 145	21, 164	▲19
	1日平均	57. 9	58. 0	▲0. 1
旅客数 (千人)	年 間	109, 865	149, 285	▲39, 420
	1日平均	301	409	▲108
旅客収入 (千円)	年 間	20, 884, 000	29, 086, 000	▲8, 202, 000
	1日平均	57, 216	79, 688	▲22, 472

(イ) 路線別

区 分		令和3年度	
		(烏丸線)	(東西線)
営業キロ数(km)		13. 7	17. 5
在籍車両数(両)		120	102
走行キロ数 (千km)	年 間	9, 508	11, 637
	1日平均	26. 0	31. 9
旅客数 (千人)	年 間	73, 365	54, 385
	1日平均	201	149
旅客収入 (千円)	年 間	11, 821, 000	9, 063, 000
	1日平均	32, 386	24, 830

イ 予算概要

平成29年度(▲23億円)以来の赤字予算

○ 経費節減等に努めるも、新型コロナウイルスによる運賃収入の激減により、経常損益は▲58億円もの大幅な赤字

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様数の大幅な回復は見込めず、運賃収入は前年度に比べ▲82億円もの減収を見込まざるを得ない極めて厳しい状況
- ・ 厳しい経営状況を踏まえ、日々の安全運行や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための予算を確保しつつ、あらゆる事業を点検し、緊縮予算を編成
- ・ この結果、経常損益は▲58億円もの大幅な赤字、また、累積資金不足が過去最大を更新する見込み

○ 市民の足を守るために

- ・ 危機的な経営状況を踏まえ、経常経費の節減はもとより、毎週金曜日の終電延長(コトキン・ライナーの運行)の休止による人件費・経費の節減、烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置のための車両改造等の延期。また、新型コロナウイルス感染症の拡大以前からの課題であった各種割引乗車券等の抜本的見直しに着手するとともに、全庁体制はもとより、民間事業者とも連携した公共交通機関の利用促進のほか、国に対する抜本的な支援の要望など、今できる取組を着実に実施
- ・ 市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて、令和3年度中に、安定経営に向けた中長期の経営計画を策定

※地下鉄事業は、令和2年度決算で財政健全化法に基づく経営健全化団体となる可能性が高く、議会の議決を経て経営健全化計画を策定する予定

(ア) 予算の主要数値

	令和3年度予算	令和2年度予算	増減
経常収入	285億円	373億円	▲88億円
経常支出	334億円	345億円	▲11億円
経常損益 ※1	▲58億円	19億円	▲77億円
累積欠損金	3,146億円	3,007億円	139億円
有利子負債	※2 3,743億円	3,678億円	65億円
累積資金不足	443億円	293億円	150億円
年度末企業債等残高	3,437億円	3,385億円	52億円

※1 経常収入と支出は税込額、経常損益及び累積欠損金は税抜額であるため、経常損益は経常収入と支出の差とは一致しません。

※2 累積資金不足及び年度末企業債等残高の双方に特別減収対策企業債残高が含まれるため合計は一致しません。

(イ) 地下鉄 1日当たりのお客様数内訳

(単位:千人/日)

	令和3年度 予算A	令和2年度		増減 A-B=C	増減率 C/B
		予算B	見込		
地下鉄全体	301	409	265	▲108	▲26.4%
うち定期	139	167	124	▲28	▲16.8%
うち通勤	97	108	97	▲11	▲10.2%
うち通学(大学)	23	41	15	▲18	▲43.9%
うち定期外	138	217	117	▲79	▲36.4%

※市バス・地下鉄合計②予算:781千人/日→③予算:569千人/日

ウ 主要事項

(ア)経営改善のための取組

〔コスト削減・事業の見直し〕

○ 経常経費の節減

- ・ IC・磁気併用の改集札機のIC専用化や券売機の設置台数の見直しによる保守管理費の削減 など

○ 人件費の抑制

- ・ 職員の給与減額措置

給料の額について、以下の減額措置を実施

- ・ 局長級▲6.0%、部長級▲5.5%、課長級▲5.0%
(令和3年4月～令和4年3月)
- ・ 課長補佐・係長級▲3.0%、係員(3級及び2級)▲2.5%
(令和3年7月～令和4年3月)

- ・ 時間外勤務の縮減 など

○ 烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置に向けた車両改造の延期

○ 「運行情報等お知らせモニター」設置など安全安心に直結しない事業の延期

○ 毎週金曜日の終電延長(コトキン・ライナーの運行)の休止

〔収入増加・利用促進策〕

○ 各種割引乗車券等の抜本的な見直し【新規】

- ・ 企画乗車券の価格適正化(令和3年10月実施)
- ・ 各種割引乗車券等からポイントサービスへの転換(令和5年4月実施)

※「トラフィカ京カード」及び「昼間回数券」は令和3年10月に発売停止

○ チーム「電車・バスに乗るっ」の参画事業者、他社局と連携した公共交通機関を安全・安心に御利用いただくための取組や利用促進に向けた取組

昭和56年(1981年)烏丸線(北大路駅～京都駅間)の運行開始

○ 地下鉄開業40周年事業の実施(地下鉄烏丸線新型車両の見学会・試乗会を含む)【新規】



烏丸線新型車両イメージ図

(イ) 安全対策等の推進

〔安全対策〕

- 北大路駅への可動式ホーム柵の設置
- 烏丸線新型車両の1編成目の営業運行開始

令和4年度供用開始予定

令和3年度:1編成
令和4～7年度:各2編成

- 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設

令和3年度(国際会館駅1, 2番線, 鞍馬口駅1番線)
全駅設置完了

- 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化
【令和3年2月補正】

令和3年度実施:烏丸御池駅・四条駅・五条駅(設計), 九条駅・十条駅(工事)
※国の令和2年度第3次補正予算を活用(令和3年2月補正)

〔省エネ対策〕

- 設備更新に合わせた地下鉄駅舎等照明のLED化の推進

烏丸線:国際会館駅・松ヶ崎駅(設計), 烏丸線トンネル(工事)
東西線:三条京阪駅・二条駅(設計), 栂辻駅・二条城前駅(工事)

(ウ) 新型コロナウイルス感染症対策

車両消毒, 車内換気, お客様への周知等を徹底するとともに, 出勤前出勤後の検温など, 交通局職員の感染防止を引き続き徹底

(エ) 中長期の経営計画の策定

「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて, 安定運営に向けた中長期の経営計画を策定

(地下鉄事業は, 令和2年度決算で財政健全化法に基づく経営健全化団体となる可能性が高く, 議会の議決を経て経営健全化計画を策定する予定)

(5)令和3年度財政状況

ア 予算比較（前年度比）

(税込)

区 分		R3年度予算(A)		R2年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収 益 的 収 支	営 業 収 益	233	57	318	60	▲ 85	03
	う ち 運輸収益	208	84	290	86	▲ 82	02
	営 業 外 収 益	51	87	54	72	▲ 2	85
	う ち 一般会計繰入金	20	73	23	27	▲ 2	54
	収 入 計	285	44	373	32	▲ 87	88
	営 業 費 用	289	52	288	83		69
	う ち 人件費	60	06	61	54	▲ 1	48
	う ち 経費(動力費・修繕費等)	90	47	91	06	▲	59
	う ち 減価償却費等	138	99	136	23	2	76
	営 業 外 費 用	44	45	56	45	▲ 12	00
	支 出 計	333	97	345	28	▲ 11	31
	経 常 損 益	▲ 57	51	18	88	▲ 76	39
	現 金 収 支	46	74	120	81	▲ 74	07
	特 別 損 益		65		0		65
	純 損 益	▲ 56	86	18	88	▲ 75	74
	▲ 累 積 欠 損 金	▲ 3,146	43	▲ 3,006	68	▲ 139	75
資 本 的 収 支	収 入	305	87	301	76	4	11
	う ち 企業債	261	71	260	12	1	59
	う ち 補助金	9	32	9	12		20
	う ち 出資金	31	94	32	36	▲	42
	う ち 固定資産売却代金	2	83		0	2	83
	支 出	434	69	427	49	7	20
	う ち 建設改良費(割賦購入費除く)	98	83	101	97	▲ 3	14
	う ち 企業債等償還金	296	25	286	05	10	20
	差 引	▲ 128	82	▲ 125	73	▲ 3	09
	有 利 子 負 債	3,742	82	3,677	42	65	40
	累 積 資 金 不 足	443	25	292	62	150	63
	年 度 末 企 業 債 等 残 高	3,437	39	3,384	80	52	59

※経常損益、現金収支、特別損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的收入と支出の差とは一致しません。

※R3年度は、累積資金不足及び年度末企業債等残高の双方に特別減収対策企業債残高が含まれるため、合計は有利子負債と一致しません。

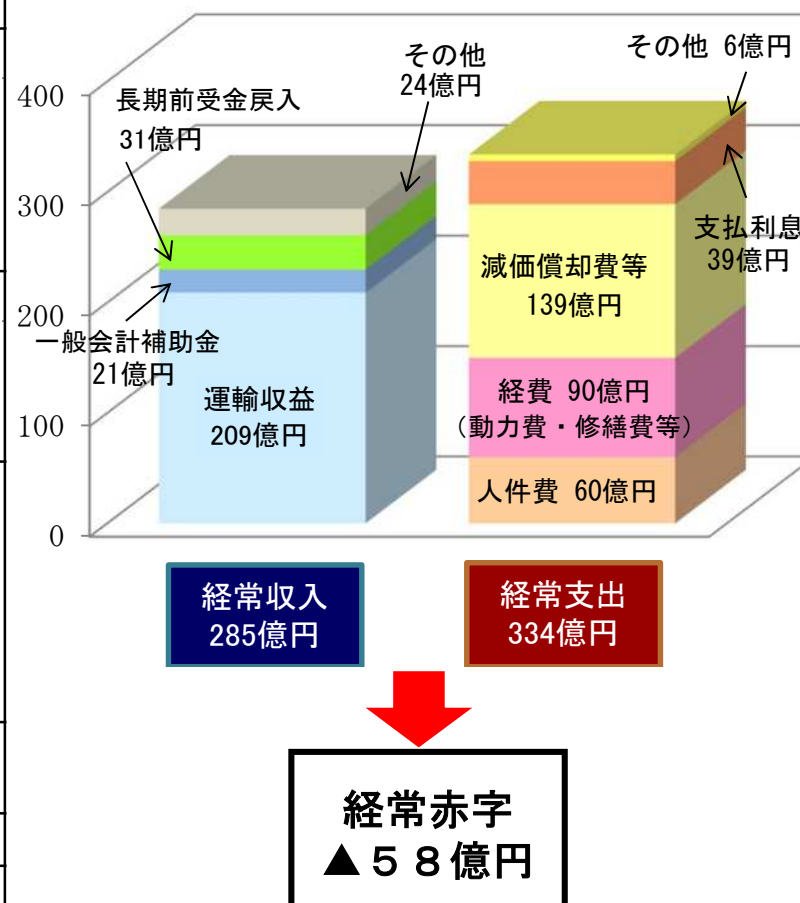
※R3年度予算の財政健全化法における資金不足額は125億88百万円となり、営業収益(233億57百万円の税抜額213億88百万円)に占める割合である資金不足比率は58.9%(経営健全化基準:20%)となります。

イ 予算の経費削減状況

(単位:百万円)

	削減額	削減内訳	
		経常支出	資本的支出
○ 経常経費の節減	▲77	▲77	—
・保守管理費の削減	▲40	▲40	—
・観光客の減少に伴う交通案内, 観光案内の精査	▲16	▲16	—
・その他経常経費の節減等	▲21	▲21	—
○ 人件費の抑制	▲55	▲55	—
・職員の給与減額措置	▲44	▲44	—
・時間外勤務の縮減(コトキンライナーの休止による時間外縮減除く)	▲11	▲11	—
○ 烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置に向けた車両改造の延期	0	—	0
※令和3年度は契約締結のみで事業費は発生しない予定であったことから削減額は生じません。			
○ 「運行情報等お知らせモニター」設置の延期	▲88	—	▲88
○ コトキンライナーの運行の休止	▲20	▲20	—
合 計	▲240	▲152	▲88

ウ 経常損益の内訳

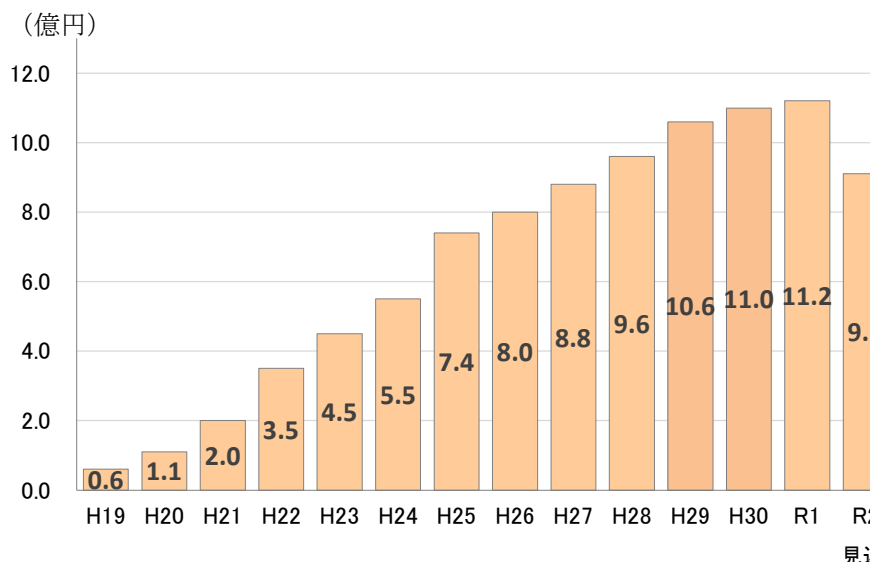


3 附帯事業

(1) 駅ナカビジネス収入額の推移

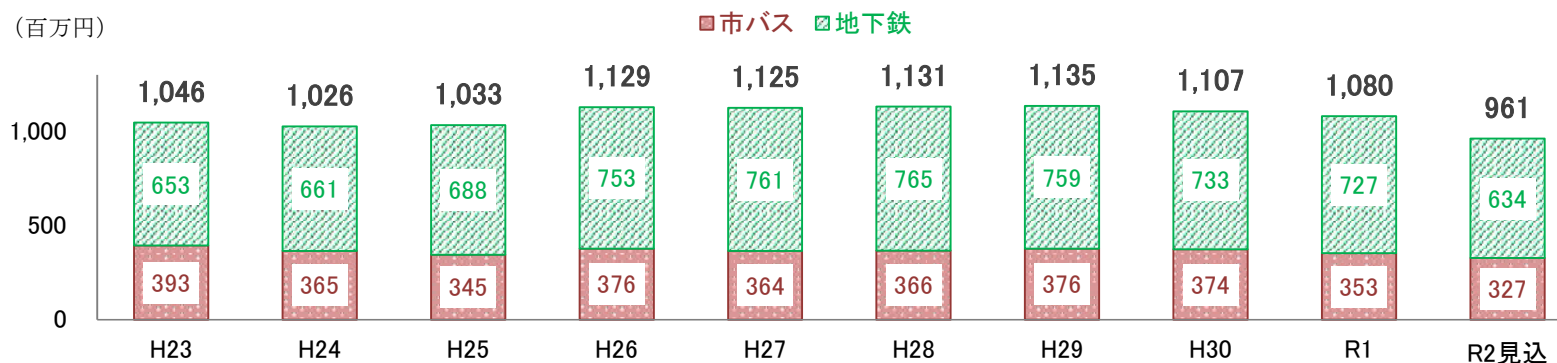
駅ナカビジネスによる年間収入について、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、店舗等の売上額が減少したこと及び緊急事態宣言発出に伴い賃料の減免（4月～5月分）を実施したこと等により、令和元年度比で約19%減少し、約9.1億円となる見込みです。

- ・地下鉄駅構内への「コトチカ」の展開
⇒四条（H22）、烏丸御池（H23開業、H27増床）、
京都（H24開業、H28増床）、
三条京阪（H25）、山科・丸太町（H26）、
今出川（H27）、北大路（H29）など
現在、簡易店舗を合わせて12駅に48店舗を展開(R3.4月現在)
- ・その他、自動販売機、ATMなどの利便施設を設置



(2) 広告料収入の推移

市バスのラッピングバスや地下鉄の駅・車内広告の販売促進、デジタルサイネージなど新たな媒体の導入にも取り組み、収入確保に努めていますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響が拡大し、令和元年度比で約11%減少し、約9.6億円となる見込みです。



4 職員数（令和3年4月1日現在）

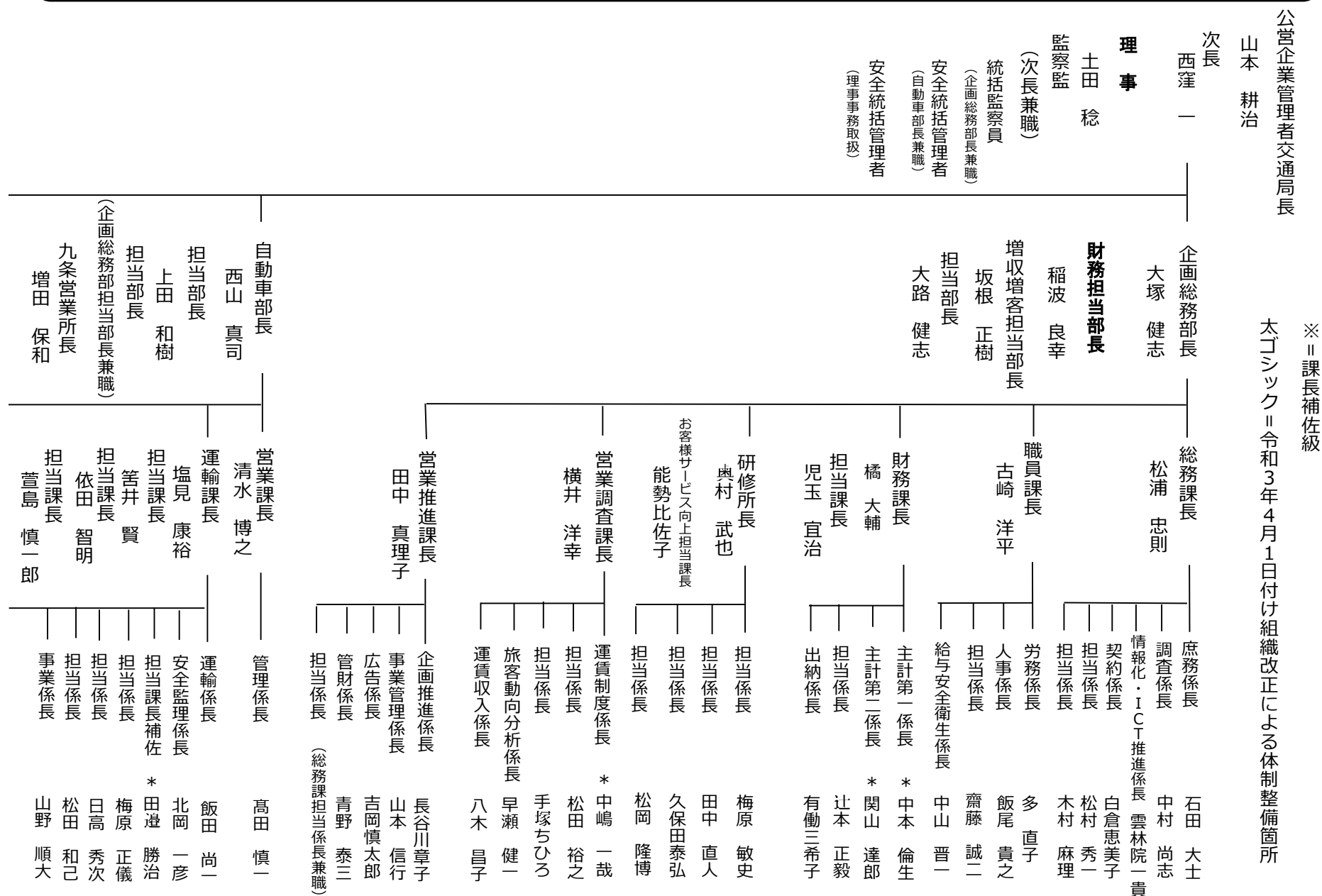
（人）

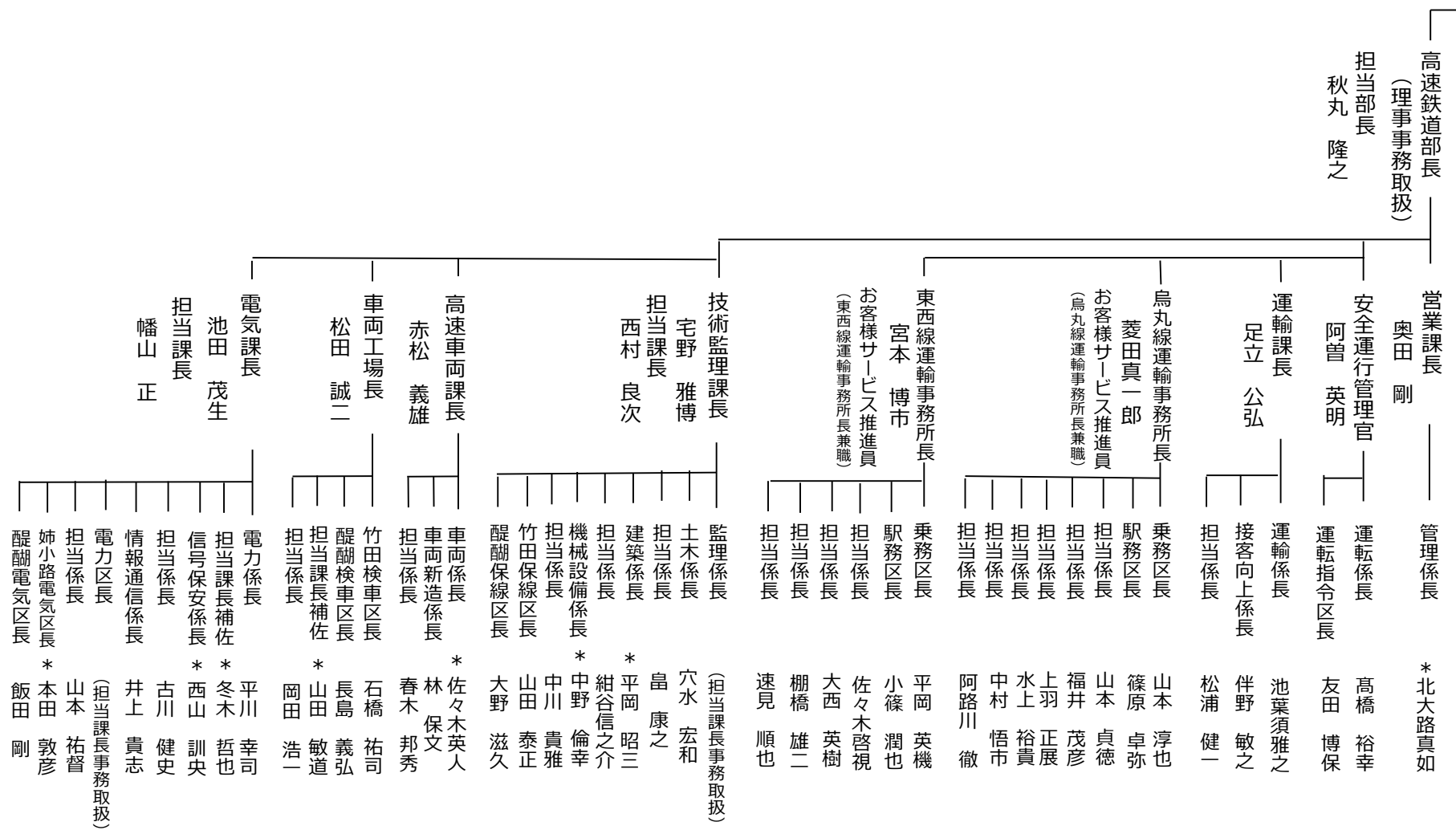
区 分	自動車	高速鉄道	合 計
公 営 企 業 管 理 者	1	0	1
局 長 級	1	1	2
部 長 級	5	3	8
課 長 級	19 (1)	16 (1)	35 (2)
補 佐 級	6 (0)	10 (1)	16 (1)
係 長 級	47 (4)	48 (4)	95 (8)
事 務 ・ 技 術 職 員 等	195 (26)	399 (29)	594 (55)
運 転 士 ・ 車 掌	922 (23)	196 (19)	1,118 (42)
合 計	1,196 (54)	673 (54)	1,869 (108)

※1 職員数は常勤職員及び会計年度任用職員の人数です。

※2 括弧内は内数で女性職員の人数です。

5 機構（令和3年4月1日現在）





(参考) 令和3年4月1日付け組織改正について

1 経営計画策定のための体制整備

平成31年3月の「京都市交通局市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえ、令和3年度中に、安定経営に向けた中長期の経営計画を策定するため、局長級ポストの理事及び財務部門を専任する部長を新設しました。

また、計画策定に当たって、運賃制度と増収増客策を一体的に検討する必要があることから、これらの業務を所管する営業推進室を局の筆頭組織である企画総務部に統合するとともに、不急事業の延期や業務の進め方を再点検することにより執行体制を見直し、課長級 1 ポスト、係長級 5 ポストを廃止しました。

2 市バス停留所の安全対策のための体制強化

国や交通管理者（京都府警察）、道路管理者等により構成される「京都府バス停留所安全性確保合同検討会」において発表された「安全対策が必要と考えられるバス停留所」について、移設等の安全対策を行うため、自動車部技術課に担当係長を新設しました。

(併任)
 行財政局防災危機管理室担当部長
 保健福祉局医療衛生推進室担当部長
 都市計画局歩くまち京都推進室担当部長
 同 同 同
 同 担当課長
 同 担当課長補佐
 文化市民局市民スポーツ振興室担当部長
 同 同 同
 担当課長

企画総務部長
企画総務部長
企画総務部長
自動車部担当部長
自動車部運輸課担当課長
自動車部運輸課担当課長補佐
自動車部長
高速鉄道部長（理事事務取扱）
自動車部運輸課長
高速鉄道部運輸課長

足立	塩見	土田	西山	北尾	萱島	大路	大塚	大塚	大塚
公弘	康裕	稔	真司	雅則	慎一郎	健志	健志	健志	健志